

やり直しのできる社会を！

新宿連絡会NEWS

2008.7.20

VOL. 49

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒169-0075東京都新宿区高田馬場2-6-10
関ビル106号 NPO新宿気付
TEL.090-3818-3450 FAX.03-5273-6895
<http://www.tokyohomeless.com>

何処へ 辿り着くのか

笠井和明

季節は夏となった。

サミットが終わっても、オリンピックが始まるうとも、相も変わらず新宿の街には食事を求める人々の長い列が一瞬にして出現し、深夜には邯鄲の夢をむさぼる人々の寝姿が闇の中に並ぶ。

この姿に触れず、そして感じない者が何を語ろうとも、私たちは私たちの前にある現実から逃れる事は出来ず、新宿の路上の上に立ち続ける。

いつの世においても、功を焦る兵が勝手に先陣を切り、戦局をねじ曲げ、時代をあらぬ方に向かわせたがるものであるが、東京におけるこのローカル戦線も実に落語的な坩堝である。打ち上げ花火は所詮



そんなものでしかないのであるが、自分よりも弱い立場の人々を見ると、俄然「正義の味方」になりたがる者は後を絶たず、火薬を捏ね捏ね路上の人々を驚

かし、そしてどこか政治の世界やら学問の世界へと、いなくなる。やれやれであるが、落ちぶれた世の底辺には善人よりも悪人が多いと、まあ、これも歴史であろう。

閑話休題。2002年にホームレス自立支援法が制定、施行され、各地で同法を根拠に様々な自立支援策が実施されるようになったのであるが、その運用に当たって具体的指針となる国（厚生労働省、国土交通省）の「基本方針」が本年夏、見直される事となった。昨年、そして今年と二年続けて行われた全国実態調査、各施策の政策評価、そして基本方針の書き直し作業、パブリックコメント募集から確定となるこの一連の見直し事業は、そもそも同法に5年後の見直しと最初から盛り込まれておりタイムスケジュールに合わせた動きでしかないのであるが、偶然なのか意図したものかはともかくとして、路上の現状の微妙な変化と、それに対応した各施策の変更を求める上では、ある意味度良い時期なのかも知れない。

だが、悲しい事にこう云う大事な問題について、我が国のマスコミ人は関心を持つ事なく、また少しは健全な支援者も、健全故の厭世観に取り憑かれ、あれこれ言う気力も失せと、そんな状況であるから、客観的な情勢はタイムリーでも、主体的にはあまりタイムリーではない、実に中途半端な出来事で終始しそうな雰囲気ではある。

しかし、考えても見て欲しい。ホームレスが存在する社会が果たして健全な社会なのかと。国会の全会派が「こんなんではいかん」と議員立法で法を制定し、ようやく国が重い腰を上げたまでは良いが、どの地方自治体も「なあなあ」で「無計画」な施策

しか実施出来なかったが故に、5年、正式に云えばもう6年にもなる今日、その施策の「終わり」は、どの自治体にも見えてはいない。

その結果が、長期化、高齢化、就労意欲の減退等、健全ではない路上生活がますます健全ではなくなる結果を招いている。

行政の人々と話しをして最近よくぶつかるのが、「無力感」である。恐らく最初は出世欲なのか何のか、いずれにせよ意欲をもって路上生活者の自立のための施策に熱意を示していたのが、いつ果てることもない迷路の中で、「これだけやっているのに…」と、その矛先が路上生活者の方に向いてしまう。「ケースワーカー病」と名付けたら真面目に働いているケースワーカーの方々に怒られそうであるが、この「病気」は具体的な成果（もしくは対価）がなかなか現れない仕事をしている者（我々もしかり）が陥る、「通過点」（麻疹？）のようなものなのであるが、裏切られても、傷つけられても、それでも路上生活はあなたにとっても、そして社会にとっても良くないと言えるかどうか試されているとも言えよう。

ここが岐路だとすれば、無力感に浸っている限り、この先、何十年も、否何百年も、この豊かな社会は、決して豊かではない路上生活者につきあい続けなければならない。不毛な対立があり、追い出しがあり、差別が蔓延り、襲撃は繰り返され、マスコミや評論家は商売繁盛。悪いのは行政だ、政府だと、これまた不毛な対立や社会不安が煽られ、当の路上生活者はそんな構図の中で利用され、心身共にぼろぼろに…。

長年こんな事をやっている、そんな見たくもない絵が見えてしまうのである。

無力感の背景には、かつてのように予算が取れないと云う問題もあるようではある。今日びの役所の中では、相当の「役人力」を持っていないと新規予



算は獲得できないようで、出世を気にして財務当局と喧嘩をしない管理職も多いと聞く。

「無駄遣いやめろ」「費用対効果」の大号令がこの国を覆っているが、そんな風潮にビビって、どんな有効な施策が出来るのであろうかと思うのであるが、結果、それで役人が萎縮し、必要な施策すら出来ないとなれば、自分で自分の首を絞めているようなものではある。必要な施策をしないと国民がピーチクパーチク騒ぐのであれば、有無を言わず増税して予算を確保し、必要な施策をすれば良いだけではなからうかとも思うのであるが…。

確かに役人を萎縮させてしまっているのは、我々、ワガママな国民の側でもある。

マスコミだって、これ程ホームレスを飯の種にしておきながら、「ホームレス基金」なんて一度もやった事はないし、また「ホームレスをなくそう」とキャンペーンを張った事もない。それで役人がやるべき事をしていないと非難するのは、アンフェアであろう。地域生活移行支援事業時のマスコミの馬鹿げた報道をじっと黙って見ていた私などは、マスコミ人と話す気力すら失われているが。

話が脱線しそうなので、元に戻せば、予算がなかろうとも、世間がどう騒ごうとも、どっかの予算を削って、他の事業に大迷惑をかけようとも、路上生活はあなたにとっても、そして社会にとっても良くないと確信を持って言えるのであれば、そのための予算を捻出し、そのための事業を短期集中で実施すべきである。

きっと、そんな事を言っているのはごくごく少数派のようで、今回の国（厚生労働省、国土交通省）の基本方針見直しには、そこまで踏み込んで書かれる事はないと断言できる。それでも、パブリックコメント時の基本方針（案）は、従前の方針を踏まえ、現状で改変可能なギリギリの所は手直しされており、頭ごなしに「こんなんだめだ」とは言えない、苦慮の痕は見取れる。

基本方針（案）の修正点は以下の通りである。

1. (就業の機会の確保)

協議会の役割をより明確にし、就業支援、就業機会確保支援、職場体験講習及び就職支援セミナー等を総合的に実施すると明記された事

2. (安定した居住の場所の確保)

公営住宅への単身入居や優先入居の制度の活用等に配慮、また、居住支援協議会の枠組みを活用し、民間賃貸住宅に関わる団体

との連携強化を明記した事

3. (生活に関する相談及び指導に関する事項)

洪水等の災害時に備え、平時から管理者との連携等を明記した事

4. (ホームレス自立支援事業等について)

自立支援センター設置に当たって、既存の公共施設や民間賃貸住宅等の社会資源を有効に活用するよう検討すると明記された事

5. (ホームレスとなることを余儀なくされるおそれのある者、いわゆる予防策の項)

日雇労働者に加え、日雇派遣労働、住居喪失不安定就労者がおそれのある者として加わった事

6. (ホームレス数が少ない地方公共団体の項)

施設整備について、既存の公共施設や民間賃貸住宅等の社会資源の活用を検討する事が加わった事

これら修正された事項は、これまでの全国ネット等民間支援団体が訴えて来た課題が網羅され、すべて適切な修正であると言えよう。とりわけ「既存の公共施設や民間賃貸住宅等の社会資源の活用を検討」は、旧来の「箱物」センターから、より地域の実情に見合った小規模自立支援センター、また借り上げ住宅等でのアパート型自立支援センター（通所型）の可能性を大きく示したものでおおいに評価が可能である。東京で言えば5年ごとに大規模施設の解体と新築を繰り返し、その都度地域住民トラブルに巻き込まれと云う不毛かつ非合理的な施設設置計画は、確かに時代遅れであり、東京の自立支援事業「再構築」に示されている借り上げ住宅型の自立支援センター構想に拍車をかける指標となる。

また、洪水等への備えなども、毎年台風の時期になると問題になる事を平時においてしっかりと連携体制を確立しろと云うのも、これまた意義ある修正である。自然災害時に最も弱い部分にその被害が及ぶのは、先の中国四川の大震災を見ても明白であり、地震と云わずとも、台風以外にも寒波等の命の危険に晒される自然災害が予想される。それへの備えを徹底して行く事まで踏み込んだ事は大きな前進である。

その他の点も表現や踏み込み度合いの程度はあるものの、基本的に現状に即した施策の修正である。

この（案）に対し、新宿連絡会は以下の観点でのパブリックコメントを提出した。

1. 就業機会の確保支援策における、自立支援センター設置に関してより柔軟な設置が可能になるよ

う、また、協議会の位置づけの整理、更に、都市雑業支援方針のより一層の明確化

2. 安定した住宅確保策における、住宅相談事業の明確化

3. 保健及び医療の充実における、医療アクセスのより一層の促進

4. 生活等相談指導における、拠点相談事業の付加及び、NPO相談所等民間事業とのより柔軟な連携

5. ホームレスになるおそれのある地域対策における、シェルター等緊急宿泊事業の拡大

6. 民間団体との連携における、より柔軟な事業実施

ここでは、ちよいと、現実可能な部分の修正を求めただけで、それなりのニュアンスが加味されれば幸いではあるが、実は一番示したかったのは、地方自治体に丸ごと投げるのではなく、民間支援団体の方が施策立案力と実践力があるよ、と云う事実である。国から地方自治体のフィルターを通ると、それだけで事業が変質し、東京などは特別区なども間に入ったりして、そしてそれからまた民間団体に細分化され委託されるとなると、もはや交通整理もままならぬ状態になる事は、ここ数年の実践の中で示された非効率性である。

たとえば、巡回相談事業と云うものがあり、国も予算をつけているのであるが、国は東京で云えば23区くまなく相談に回って、自立支援センター等の誘致をしていると思っているのだが、実際は、昼間の巡回だけに、テント等の定着層にしか手が届いておらず、しかも、緊急時以外は事業を紹介するだけで、ちょっとした宣伝をしているにしか過ぎない。夜寝ている仲間聞いてみれば分かるが、「そんなん会ったことないよ」と口を揃えて云う。宣伝マンなら宣伝マンに徹していれば良いのであるが、戸山公園やらで特別清掃などをする日は格好の宣伝日な



のであるが、そんな日には決まって来ないで、別のところを回っている始末。

国にそこまで目を届かせる事はまず不可能なので、地方自治体レベルにおいて、より効率的な巡回相談を企画すれば良いだけなのであるが、東京の場合は東京都ではなく、特別区人事厚生事務組合が巡回相談を実施し、更に再委託をし、何故か緊急一時保護センター受託社会福祉法人の職員が実は巡回相談をしている。建築土木業同様「重層の下請け構造」と皮肉を込め呼びたくなるような構図であり、ピンハネは、まさかしていないとは思いますが、その代わり、責任の所在が見えなくなると云うアンダーグラウンドな事業に化している。

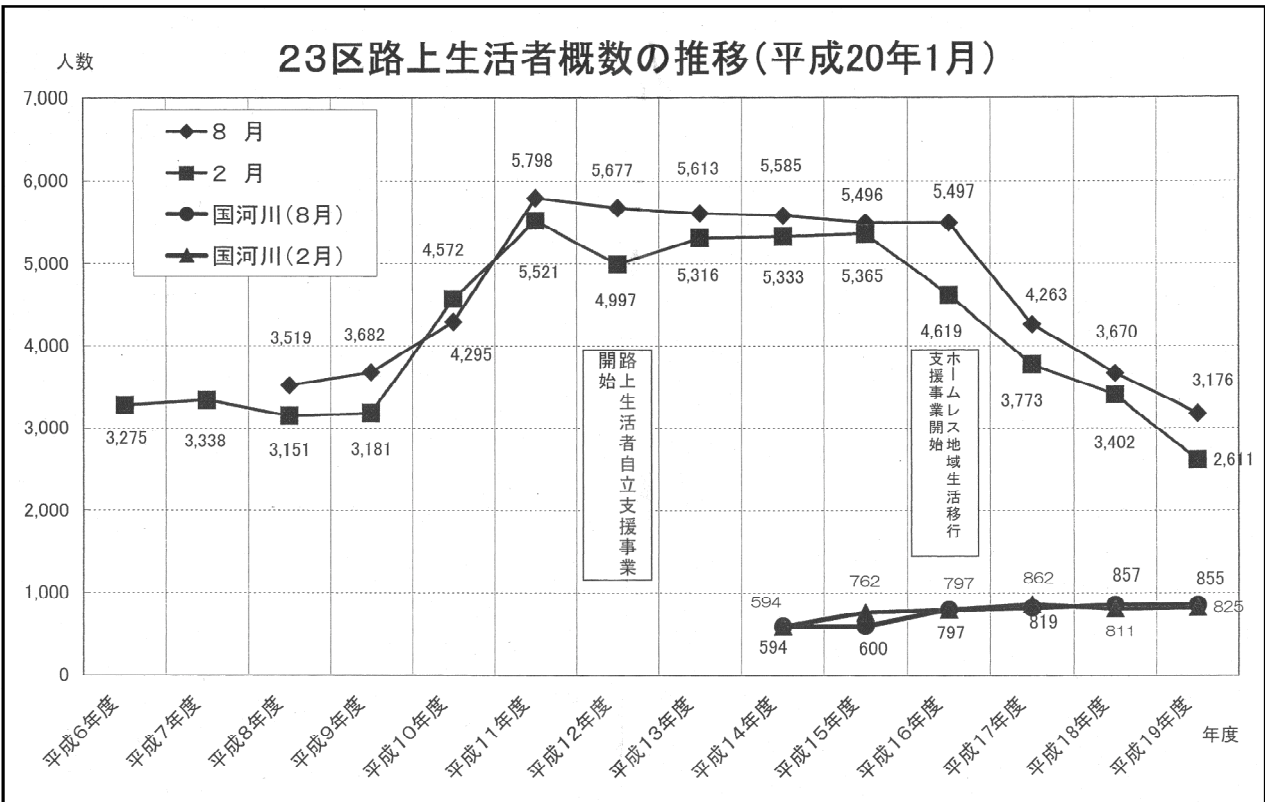
都が国の予算を使いながら実施している諸事業の非効率性をあげつらったらきりが無い。この問題は、「無駄遣いやめろ」の観点ではなく、情報の統一と言う観点からマイナス要因となる。ホームレスと言っても、もちろん個々様々な事情を有する個人である。そこには、小悪人もいるし、善人もいる。しかし、自立のための施策を実施する以上、そこで聞き取られ、かつ収集された情報の積み重ねの上で、個々の支援策を確定する以外はないと思うのであるが、自立支援法の諸施策でさえ、労働分野と福祉分野の情報は統一されておらず、これが生活保護なんて事になると、23区バラバラの情報網で、本人に取ってみれば、いろいろな事業を跨いで利用すると、「同じ事を何回も聞きやがって」となる。

正直者で忍耐強い本人が自己申告しない限り、情報が統一されていないから、中には、あっちの区に行き、こっちの区に行き、はたまた隣の県に行き、また戻りと、同じことの繰り返しが容易に起るのである。

こんな事を云うと、ホームレスは偽名を使っているから分かりやしないと云う向きもあるが、フランス人の研究者から聞いたところでは、フランスの社会福祉緊急援助では、電話相談をする時、「偽名でも良いから、同じ偽名を使ってね」と云うのだそう。それでもって、個人情報やら、困窮している内容等をどんどん専門のソフトに入力していくと、別の偽名を使っても、たいがい同一人物に絞れると云うからその技術力たるや脱帽ものである。海の向こうの自由の国では、管理するためではなく、支援するための個人情報はじゃんじゃん集め、それを利用してじゃんじゃん支援しているのである。個人情報保護法でがんじがらめになっている自己規制している我が国がなんとも滑稽に思える。路上生活はあなたにとっても、そして社会にとっても良くないと確信を持って言える文化の違いなのであるか。

このような肝心な非効率性には蓋をして、あまり重要でない非効率性を重視し事業を縮小させようとしているのが、東京都と23区の「自立支援事業再構築」であると、前の号だか、その前だかで書いたと思ったが、まあ、はっきり言って、実にちぐはぐ

23区路上生活者概数の推移(平成20年1月)



なのである。と、云うか、国の基本方針が改定される前に、とっとと「再構築」してしまう所が、傲慢なのである。

その傲慢さの裏付けとなったのが、およそ10年かけて23区の路上生活者を半減させたと言う実績なのであろうが、これでさえ、長期的に見れば、元に戻った水準でしかなく、しかもその最大の要因たる地域生活移行支援事業の新規受付を停止した状態で、今後一体どれだけの減少が期待できるのであろうか。

他方で低所得者対策と銘打って、東京都は住居喪失不安定就労者、多重債務者、失業者等への重点的な施策を今年度から打っているが、そのほとんどが「無利子貸付」と言う手段であり、結局は問題の先送り策しか出来ず、また公金の貸付制度の宿命として、貸付条件は当然ながら厳しくなり、皮肉な事に、「ホームレスになる恐れのない」者が条件に当てはまり、「ホームレスになる恐れのある」者は条件に当てはまらず、最終的には路上に放り出すしかない仕組みを作り出してしまった（都はホームレスの予防策をこれだけやっていると言っていたが、実際は所詮こんなものである）。新宿区などはその最大の被害者で、区内に住居喪失不安定就労者の窓口が作られた事で、その窓口で撥ね付けられた若者たちが、仕方なく福祉事務所にまで足を運ぶと言う事態に直面している。

そんな失業した若者も含めて吸収すべき、いつも空いている筈の緊急一時保護センターは、4月からのリピーター無条件容認によりほとんど満床。今や予約すら出来ないプラチナチケットと化している。

建築日雇市場は例年以上の冷え込み、しかも代案なき日雇派遣禁止、自主規制の影響で派遣労働者も一部は路上生活へと、雇用をめぐる環境も一時の好況を脱し悪化の一步寸前。

こんな状況の中、どうしたら東京都のように傲慢になれるのか、その精神構造を探って見たくなる程である。

「無力感」と「傲慢」。

まったく訳が分からない。

路上生活はあなたにとっても、そして社会にとっても良くないと、何故言えないのか？傲慢なら、傲慢で、路上生活者を限りなくゼロに近づけますと何故言えないのか？

この東京の在り方に疑問を呈し「ホームレス対策会議」で、「2016年までホームレスの数を限りなくゼロにする」と、共産党でもなく、民主党でもなく、何と都議会自民党が真っ先に打ち出した（他の会派も追随すべきであるが）。

これまでの事は評価するが、こんなんではまだまだ満足はしないとする、援軍である。

都の成果に満足して頂いていると考えていた都議会最大与党にこんな事を突きつけられ、今、東京都はてんやわんやである。「オリンピックが決まって、その実施前にあわてて追い出しなんかしても意味がない。今から出来る事は全てやらなければ。」そんな趣旨の発言がこの会議の中であったが、何と先見の明であろうかと感じ入った。中には、オリンピックの落選を願ってしまう都庁の役人がこれから現われるかも知れぬが、いずれにせよ堰は切られたばかりである。

路上生活はあなたにとっても、そして社会にとっても良くないと、この社会が宣言するまで、私たちのたたかいはまだまだ続く。

(了)

ホームレス対策会議 「五輪までにゼロに」 都議会自民党

都議会自民党は9日、ホームレス対策会議（会長＝服部征夫総務会長）の幹事を開き、東京五輪招致に向けて、「2016年までにホームレスの数を限りなくゼロにする」ことを目指して取り組むことを確認した。写真。また、多摩川のように国が管理する河川敷のホームレス対策について、国の責任で対策を行うよう、秋の予算要望で求めることを決議した。08年度の都内のホームレスは約2600人で、ピーク時の99年度（約5800人）に比べると半減。一方、23区でもホームレスの数が3桁を超える区が10区ある。会議には、ホームレス問題勉強会代表幹事の保坂三蔵・都連会長代行や都議、関係区議のほか、NPO2団体が出席。「NPOの活用をすべき」「近隣の区と連携しながら対策をとらないと、いつまでも隣の区に流れてしまふ」といった意見が出された。



都政新報
2008/7/11



新宿花見の会今年も大盛況

4月5日、春になると恒例の新宿花見の会が新宿中央公園で開催された。皆の力でようやく厳しい冬を越した「慰労会」のようなもので、この日だけは能書きなしの無礼講。飲めや歌えやの大宴会。前夜から仕込んだ花見弁当を配り、ピクニック気分の昼食の後、アルファ米や缶詰めなどあるものないもの全部放出。暖かな日差しの中「毎年この日を楽しみにしていたんだ」なんて憎い一言に、さあもう一杯。毎年救急搬送があるお騒がせ花見も、今年は被害者ゼロでした。



第14回新宿メーデー250名結集

都庁交渉をやりぬく

毎年5月1日は、新宿の仲間が総結集の日。毎年欠かさずこの日に実施している、野宿の仲間のメーデー行動も今年で早14回目。何が変わり、何が変わっていないかを確認する節目の日。今年もさしたる宣伝をしなくとも昨年と同じく250名の仲間が柏木公園に結集。4月25日、都庁前に集まった150名の仲間の前で東京都保健福祉局に提出した「連絡会春の要望書」を皆に配り、あーだこーだと久しぶりの能書きで説明。その後、新宿連絡会、池袋連絡会、三多摩ネット、山谷の仲間有志がそれぞれの地区の現状報告。昼飯食って腹いっぱい、正午になると元氣よく都庁へのパレード出発。わいのわいのと新宿の街を胸張って行進。

都庁の前では「頼んだぞ～」の声がかり代表団が交渉入り。得意の舌戦で東京都福祉保健局の課長をてんでこ舞い。「で、やるの？ やらないの？」

東京都はお得意の「検討します」と、まあいつもの調子。決裂しないよう前向きに話しを閉めて部隊に合流。

「いや～、楽しかったね」そんな一言が、新宿の野宿の仲間のメーデーである。



全国ネット総会と研修会(大阪)に参加

5月5日-6日、大阪釜ヶ崎で開催されたホームレス支援全国ネットの総会と研修会に連絡会メンバー代表5名が参加して来ました。

基本方針見直し直前、北は北海道から南は沖縄まで、支援活動が続けている仲間が100名以上が参加、各地の現状と活動が報告され、とても刺激的でした。総会も無事終わり、連絡会も全国ネットの小さな一翼として、学び、進んで行こうと決意し直したと云いたい所、メンバーは大阪見物の方が楽しいようで・・・。





東京では全国ネット主催のシンポが。

5月31日、池袋の芸術劇場で全国ネット主催のシンポジウムが開催されました。130名を超える人々が参加し、岩田正美先生など学者さんのお話に耳を傾けておりました。タイトルは何と「路上の変容」。路上はあまり変わっていない（と、云うか放置されて悪化しているだけ）が、変わったのはあんならの方じゃないのかい？と茶々を入れたくもなりましたが、黙ってお話を拝聴。大盛況でした。



中央公園で結核検診会が開催

7月8日、新宿福祉事務所と新宿保健所合同の無料結核検診会が中央公園で開催され、82名の仲間が受診をしました。

連絡会は毎月、医療相談会を実施していますが、その中でも路上にいると尚更難しい「健康管理」を常日ごろ訴えています。昨年の検診会は49名と極端に少なかつただけ、「ヤケのヤンパチ」になったのかと心配していましたが、今年は多くの仲間が呼びかけに応え受診。28日にも二回目の検診会があり、トータルで軽く100名を超える受診が実現しそうです。良い結果であることを願います。

ボランティア募集中!

新宿炊出し (準備・片付け)
 毎週日曜 午後6時より7時半
 ところ 新宿中央公園ポケットパーク

池袋炊出し (準備・片付け)
 第2、第4土曜 午後3時より5時
 ところ 南池袋公園

医療相談会

第2日曜 午後7時より8時半
 ところ 新宿中央公園ポケットパーク

第2日曜 午前10時より正午
 ところ 戸山公園

パトロール (夜回り)

新宿駅周辺 毎日曜 午後7時半～
 戸山公園 毎水曜 午後6時～

*お問い合わせ先

090-3818-3450

(笠井) もしくは、

メール

shinjuku@tokyohomeless.com

新宿連絡会

2008年3月～2008年6月

会計報告

今期も物品カンパ、現金カンパ誠にありがとうございました。

取入)		支出)	
炊出部門寄付	694,200	炊出し事業費	197,210
活動部門寄付	32,000	生活援助費	215,059
その他寄付	751,246	池袋支店用品	40,000
借入金(繰越債務)	698,073	教務費	48,600
		旅務費	60,845
		旅務用品	52,200
		通信用品	5,766
		消耗品	58,087
		車両修繕費	52,153
		研究費	2,600
		事務所費	51,149
		支払手数料	600,000
		諸雑費	5,244
		返済金	10,000
			776,606
合計)	2,175,519	合計)	2,175,519

引き続き現金カンパ、物品カンパを宜しくお願い致します。新宿連絡会は皆様方からの寄付を一円たりとも無駄なく仲間のために使い切ります。そのため現在赤字続きですが、借金をしてまでも仲間のための活動を維持し続けます。

第15回

新宿夏まつり

support independence

2008/8.16~17

新宿区立中央公園/水の広場/特設会場

第15回
新宿夏まつり日程

8月16日(土曜)

☆午後5時より
追悼会
カラオケ大会
映画会
そうめんサービス
(午後9時まで)

8月17日(日)

☆正午より
昼食サービス
散髪サービス
かき氷サービス
ゲーム大会
すいが割り大会
☆午後6時30分
お弁当、ワーロン杯サービス
(整理券は5時30分より配布)
☆午後7時より
納涼新宿コンサート
盆踊り (午後9時まで)

夏祭りカンパ大募集中!

夏物衣類、帽子、靴、タオル、靴下、
石鹸、ひげ剃り、風呂券、テシホンカ
ード、クオカード、缶詰などなど。
*ゲームの景品などに応じて、路上の方々に
配ります。

●日常活動への現金カンパ

振込は、郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

オンラインカンパは、<http://www.gambanpo.net/>「ガンバNPO」(登録NPOを探すをクリックし新宿連絡会を見つけ、そこから寄付ご協力をお願いに入ってください。)からだとジャパンネット銀行、クレジットカードで寄付が可能です。

●郵便物及びカンパ物品送付先は以下の住所にお願いします!

★郵便物及び衣類(男性もの春、夏もの)、医薬品、米などのカンパ物品は

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-6-10関ビル106号NPO新宿気付 新宿連絡会 宛て
(平日9時~5時で受取が可能です)をお願いします。